

奈良のむかし

ばなし

第46話

奈良に古くから伝わる
むかしばなしをご紹介します。



水足明神

神社の地はもと水足池の沼地であった。現在は拝殿の西側に小池があり、水足池という。池の淵にひっそりと水足明神が祀られている。



砂かけ祭 (2月11日)

豊作を祈願する「お田植祭」で、雨に見立てた砂をかけ合う大和の奇祭。午前には、拝殿で、苗代作りから田植えまでの所作を、田人、牛役、早乙女らが演じる。午後は砂庭に青竹4本を立て、しめ縄を張った田圃で午前と同じ所作。太鼓の合図で、田人らと参拝者が一緒になり砂をかけ合う。砂を激しくかけ合うほど豊作になるとか。そのあと豊穡を祈る松苗と無病息災を願う田餅が撒かれる。レインコート、ゴーグルの用意を。

廣瀬神社と 水足池

ひろ せ じん じゃ
みず たる い け

文・山崎しげ子



廣瀬神社が鎮座する北葛城郡河合町川合は、その名の通り、葛城川、佐保川、曾我川などいくつもの川が大和川と合流するところ。明治の中ごろまで物資の集散地として賑わった。

ただ、一帯は沼地であった。そんな地にあつて、廣瀬神社は、水田を守り、河川の氾濫を防ぐ水神を祀る神社として古くから信仰されてきた。

昔、河合に藤時ふじときという里長さとみちがいた。ある日の夕方、家の外に神様が人の姿で現れた。顔の美しい若者で、花模様の着物を着、芳しい香りを漂かほわせていた。そして里長にこう言った。「お前の家の北に池がある。あれは水足池で、底は深く、竜王がすんでいる。そこで、その池の上にご殿を造ることにしよう。承知するか」と。

藤時は困った。「池の上はいつも波が高いので、わたしら人間は、とても泳いでご殿は建てられません」とすると、若者は言った。「おま

えたちは水に溺おぼれることを恐れているようだ。もし、池の水をなくして平地にすると、ご殿を造ることを承知するか。そのしるしは、翌朝見られたい」と言つて姿を消した。

翌朝、驚いたことに、水足池は、水のない平らな地になつていた。そこで、藤時は、大工を呼んでご殿を建てた。これを水足明神みづあきのかみという。

このことを、急いで朝廷に伝えると、天皇の使いである勅使ちくしの人たちがきて、厳かにお祭りをされたという。

廣瀬神社の創建にまつわる言い伝えも、ほぼ同じ。崇神天皇のとき、水足池が一夜にして陸地となり、橋はしの木が多く生えた。これが天皇に伝わり、社殿を建ててお祭りをした、と。

今、朱色の大鳥居をくぐると、長い参道が続く。大樹が深々と天をおおい、冬の柔らかな木洩れ日と鳥の声が、ゆっくりと古代の神

物語の場所を訪れよう

「廣瀬神社」(河合町川合)へは...
近鉄池部駅から北東へ約2.5km。



廣瀬神社 ☎ 0745-56-2065

域にいざなってくれる。白砂はくさの齋庭さいだまに、黄色い実をいっぱいにつけた橋はしの木が数本。その向こうに荘厳な拝殿と本殿。西へ曲がると、昔話に登場する「水足明神」を祀る小さな社と、横に沼のような小池が残る。向こうには、今もいくつもの川を集めて流れる大和川の高くどっしりとした土堤が見える。静寂の境内は、古代が甦よみがえったかのような懐かしさにつまれていた。